

会議名		平成 27 年度公民館運営審議会(第 3 回)		
事務局		生涯学習課座間市公民館		
開催日時		平成 28 年 1 月 20 日(水) 午前 10 時～11 時 30 分		
開催場所		座間市役所5階教育委員会室		
出席者	委員	14 名	その他	0名
	事務局	3 名	傍聴者数	0名
公開の可否		可		
内 容		<p>1.あいさつ 稲垣委員長</p> <p>2.出席委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座間市公民館 稲垣文野委員長、吉泉幸子委員、柳下洋昌委員、佐藤隆雄委員、中木原利一委員</li> <li>・北地区文化センター 木村由紀子副委員長、赤木みな子委員、天野久美委員、有川正則委員</li> <li>・東地区文化センター 松岡たみ子委員、飯田由美委員、佐々木邦彦委員、大西太郎委員、山近佐知子委員</li> </ul> <p style="text-align: right;">(全 14 名)</p> <p>事務局 座間市公民館 山頭館長、北地区文化センター野口館長 東地区文化センター植松館長</p> <p>3.協議題</p> <p>1)生涯フェスティバルについて経過報告 座公の委員から説明 オープンサークル 2月15日～3月15日 ハロースタディ 3月8日火曜日午前11時～午後3時30分 場所 ハーモニーホール座間 小ホール お手伝い 3月8日9時から準備終了16時30分 各館公運審、協力をするため1人ずつ出すこと。</p> <p>2)平成27年度の事業評価について 各館長から説明 委員 座間市公民館の「ふるさとの歴史 キャンプ座間今昔」定員が30名のところ、61名参加というのは定員を超えても受け入れたということか。 事務局 集会室という広い部屋で行ったため、当日参加も受け入れた。</p>		

委員 東地区文化センターの「男子厨房に入れて魚をさばこう」参加費はどうだったのか。

事務局 参加費いただきました。1500円です。

4種類で鰺、鯛、鯖、鱸(すずき)

事務局 事前アンケートとはどういうことでしょうか。

事務局 講座をやる前に実際にこの事業目的のところで男の人は実際どのくらいの世代の人がどのくらいやっているのか、そのアンケートを元にして内容を作ったということもある。

委員 だいぶ前に一般的に館の利用者に対して行った。

事務局 サマーアイランドの企画内容でインクルーシブな視点からと書いてあるがどういうことか。

委員 インクルーシブは神奈川県の中でどの子も参加できるというような形で支援教育ということを言われている。サマーアイランドの中に色当てというものがあったため、色覚的にちょっと当てるのが難しいような部分がある子は難しい。誰もが参加できるような企画を考慮されれば。ハンデが無いようにする。

事務局 公民館の方で今度のキャンプへの見学は同じ先生が来るのか。

事務局 講師は来ない。担当職員とキャンプの方が説明等してくれる。

### 3)館長・公民館運営審議会委員研修会参加報告

委員 11月12日木曜日茅ヶ崎のコミュニティホールで行った。人権についてパワーポイントを使ってわかりやすい話だった。その中で自分の大切さと共に他の人の大切さを認めること、お互いがお互いを尊重するために人権教育をしているとのこと。ワークシートを使い例えばハンカチの使い方は何があるか発表し、10以上あり、物事を一つの方向から見るのではなく、いろんな方向から見ることを学んだ。また、我が子に対しての言い方も子どもの気持ちを尊重しながら自分の思いも伝えられるように、何事でも言い方一つで受け取る側も変わる大切さを学んだ。

### 4)関東甲信越静岡公民館研究大会参加報告

委員 11月14日土曜日小平市民文化会館で開催。「公民館 その新たな可能性」～東京発、戦後70年目の温故知新～というテーマであった。全体の構成はアトラクションがあり、式典があり、恒例の開催者のあいさつ等あいさつが続いたが特質すべき点は来年の開催が神奈川県ということで大会旗の引き継ぎが東京から神奈川県の木下公民館連絡協議会会長へあり、突然のことだったが我々公運審や館長含め参加者が舞台上がり歓迎コールを行った。そのあと基調講演があり、シンポジウムという流れになった。特に基調講演について報告。湊川短期大学の副学長であり、かつ神戸大学の名誉教授である末本さんという方から「持続可能な社会づくりと公民館」というタイトルで報告があった。ESD持続可能な社会づ

くり。個人的にはESDという言葉は初めて聞いた。今までは地球規模で環境の変化、病気の世界的な面等これまで国連を中心に持続可能な解説があつてずっとそれを取り込んできたということらしい。環境整備だとか裏側としての人類とか人間としての価値観だとか環境に寄れば一人ひとりの生活習慣や生活態度を変えていかないと環境整備というのも一言では解決できないという課題が少しずつ見えてきた。一人ひとりの人々が変えて行くということがこれからの大きなポイントだろうという指摘があつた。この変革のためには教育が大事。教育も学校型の教育ではなく、教育モデルというのを考えていかなければならない。学校型の教育モデル以外の教育は何か、そこで公民館が登場する。ESDという観点から公民館の可能性を考えることで、昨年岡山で公民館での役割について議論があつた。学校型のインフォーマルな教育でなくてノンフォーマルな教育であることの確認がされたい。具体的なことについては今後の議論になる。公民館の位置づけは出会いや交流の場であるということESDに取り組んでいくために、いろんな切り口からいろんな人が当事者となって考えていかないといけないという話とそれは公民館活動に求められるところだということだった。一人ひとりの感覚だとか言葉の共有化、当事者の経験交流と共有こういった具体的な個別の取り組みを広げていかなきゃいけないという指摘だった。一言でいえば公民館というのは市民活動が拡大していくための支援の場だと。プラットフォームといういい方をしていたがそういう出会いの場の提供となって行くべきであるとのこと。公民館の新たな発展に向けた課題という形で次に触れていた。当事者意識を確立していく必要があるのと同時にESDというのを地域の問題として読み取っていくということが大事ではないか。それぞれの住民はいろんな不安やある程度思いつきというものを持っている。そういうものが出てくる場という形にしていくべきではないかという話であつた。公民館の市民大学を超える教育観をイメージした公民館あるいは縦割り行政からの脱却というような指摘もあつた。行政にはないいろんな知識は持っているで知識を与えるのではなく、一人ひとりが持っている市民の知識だとか経験を引き出すことが大事。言い換えると地域あるいは地域課題の解決という公民館の役割を再認識して単なる学び知識の獲得ではないという公民館の行動の中で気づくという感覚が必要になるとのこと。

個人的な感想 ESDという概念を初めて知り、地球規模の課題が公民館のあり方にずっとたどっていくと繋がっていくということは新しい発見だった。公民館の今後のあり方として公民館活動にかかわる運営審議会委員だけではなく、重く受け止める指摘だったと思う。一つは地域課題を読み解く力を我々自身が磨くこと、当事者意識をいかに強く他人事ではなく、持つこと、上からの教える感覚ではなく、そこから脱却していくのかというと

ころ、市民は豊かな知識と体験、経験を持っている。知識は公民館関係者が与えるものではないという意識をいかに持つか、講座プログラムから自主的、自発的な教室へ発展を促進するプラットフォームという言葉が出てきたが、場の提供という意識をいかに持つかが大事。行政との関連で言えば縦割りを超えて他の領域との連携が必要という意識を我々が持つ。学びというのは知識の獲得だけではなく、行動の中で実際に出て問題解決に結びつくのである。最後にシンポジウム末本さんの講演で印象的だったのが公民館関係者は市民に対して伴奏者、同じ発音で伴走者であってほしい。つまり先導することではなく、市民に寄り添って、もし、道はずれたときは緩やかに軌道修正して欲しい。これが公民館関係者の今後の姿勢ではないかということ的印象深く受け止めた。以上。

委員 神代さんの公民館をめぐる問題というのと井口さんの7つのコンセプト、17の開発目標というのが課題。この課題について考えたが課題というよりは漠然としてよくわからない。持続可能な社会とはどのような社会なのか、想像を巡らせながら聴いていた。公民館三館において既にESDに伴うような講座を実践していると思うが少し不足しているのではないか。それは評価のところであり、その後教育を受けた人がどのように行動するかが大事である。以上。

委員 ESDというのがものすごく多く出てきたので気になり調べた。持続可能な教育と出てきた。社会づくりとも書いてあり勉強になった。

#### 5)あすなろ大学について経過報告

事務局 現公運審委員任期の間に館内職員会議等へあすなろ大学の今後の展開の仕方について東地区文化センターの考え方を示して意見交換をしてまとめて行く作業をし、次期の公運審の委員さんになってから意見具申の形であすなろ大学を広げていくとして公民館での高齢者学級の勧め方について東地区の考え方を出すという流れについては、12月にかけて館の職員で打ち合わせをしているところである。まだ形になっていないため、ペーパーとして出すことはできない。申し訳ない。

そこで偶然にも良い資料があったので出させていただいた。基本的に公民館での高齢者学級というものが高齢者の学びがこれからどうやって進んでいくかという指針について文科省の生涯学習局男女共同参画学習が取りまとめている。国はだいたい5年7年10年スパンで方針を出している。

公民館で高齢者いわゆる大学という形でやっているものと公民館でやる社会教育一般的にいう学級の違い、社会教育がその市民大学という学習の場をどういう形に位置づけて行くかがこれからの議題になってくる。そういった中、来年度の関プロの「シニア高齢者の学び」で座間市のあすなろ大学の事例報告をすることが決まっているが、いくつかの関東で行われている高齢者大学や市民大学が注目され、どういう形で大学を運営していく

のか学習が作られていくのかが見られる期間に入っている。東地区では、具体的には地域課題に即して市民の学習要求の求めに応じて学習の機会を作っていくのが前提にあり、1年間学び続けるというような今のESDの中にもあったプラットホームとしての教育機関機能というのは、公民館は本来想定していないところである。そこでどうやってプラットホームとしてあすなろ大学というのを位置づけていくのかというようなことを考え、今基本的な部分で話し合いを続けている。結果としてそういう状況である。

委員 近隣のいろいろなそういう生涯学習に対する要素みたいなものを鑑みながら事業継続していくことになっていくのでしょうかね。形を変えながら。また、館としてボリュームが多いのでどうなのかなというところがあるが、経過報告を聞きながら見直しということをお願いします。また、何か意見等あれば直接東の方へ言ってください。

以上で議題終了。その他何か報告等あるか。

事務局 1月29日金曜日第57回神奈川県公民館大会が川崎市高津市民館で行われる。時間は12時30分～16時30分まで。集合中央林間田園都市線11時。

1月31日大人のための朗読会。あすなろ大学展がハーモニーホールギャラリーで2月5日～7日まで。基調講演は6日土曜日1時30分～。

委員 以上で終了。